（別紙１）

総　括　研　究　報　告　書

課題番号		2023B-5
研究開発課題名		小児周産期の臨床指標（QI）の社会実装
分類※		□①　□②　□③　□④　☑⑤　□⑥　□⑦
区分		□A　☑B　□C　□E　□S
主任研究者	所属	社会医学研究部
	役職	室長
	氏名	大久保　祐輔

実施期間	2023 年　4 月　1 日　～　2023 年　9 月　30 日

※分類は下記①～⑦より選択

①　日本の成育分野の疾患の研究の基盤となる研究

②　診断、治療及び予防法の開発に関する研究

③　発症機序や病態の解明等を行う研究

④　診断や治療のための基準の開発等に関する研究

⑤　患児・者の QOL 向上に結びつく研究

⑥　研究的視点や技術をもつ医療従事者を育てるための研究
（プロトコル作成のフィージビリティー研究）

⑦　政策提言に結びつく研究

成果の概要

1. 研究の目的

本研究は、成育医療研究センターで開発された日本発の小児周産期の医療の質の指標（QI）を拡大・発展させることを目的としている。具体的には、以下の３つのアクションを繰り返し実施する：

① 初版の小児周産期 QI の見直し

② 医療ビッグデータを活用し、小児周産期 QI の一般化可能性を検討

③ JACHRI 協力施設の 2019-2022 年度データ元に、修正した QI を算出しフィードバック

最終的には、これらのプロセスを通して、社会実装を達成することを目指している。

2. 研究の背景

医学の進歩により、日常診療は多様化・複雑化してきた。標準的な医療が確立されているにも関わらず、医療機関や医師による診療の質にはバラつきを認められ、1970 年代から問題視されてきた。2000 年代以降、医療の質を数値化し、医療提供者へフィードバックして医療の質を向上させ、患者の利益・安全性や医療リソースの最大化を図る試みが進められてきた。2022 年度までに国内初・成育発の小児周産期の診療の質（QI）が開発された、今後は QI の拡大・再定義・見直しを行い、社会実装を進める必要がある。

3. 研究の方法

初めに、2022 年度に算出された初版の小児周産期 QI の見直し・再定義・追加・削除を行う。当該領域の専門家を集め、臨床および研究の双方の視点で検討する。

次に、修正した小児周産期 QI が JACHRI 外の施設にも一般化可能であるか、大規模レセプトデータ（MDV）を使用して検証する。MDV は既に取得済みで、470 病院・80 万人分の入院レセプトデータが利用可能である。

さらに、JACHRI 協力施設の DPC データを活用し、修正した小児周産期 QI を算出し、初回算出分との比較や経年変化を確認し、それぞれの施設へフィードバックする。

4. 研究の成果

初版の小児周産期 QI の定義の一部を小児感染症の専門家とともに見直し、修正事項を確認した。また、乳幼児の入院の原因として多い急性細気管支炎・肺炎・気管支喘息を中心に、過去の文献をレビューをし、米国・カナダの医療の質の研究、各学会のガイドライン、賢明な医療の選択を基に新たに指標を作成した。さらに、MDV データベースを用いて、RS ウイルス感染症で入院した乳幼児の医療の質（QI）の推移を 2018 年～2022 年まで算出した。研究成果は医学英語論文誌に投稿し、現在査読中である。

5. 今後の展望

社会実装を目指し、民間企業と協力して大型の研究費を申請し 2023 年 9 月に獲得したため、成育医療開発費は早期終了とした。新規に獲得できた研究費をもとに、2023 年 10 月より QI の普及およびフィードバックシステムの確立をより加速させていく予定である。